

和通語

武家部下

六

9
4062
6

門 口 9
號 4062
卷 6

倭語卷第六目錄

武家部下

平時房

青砥誠賢

源義兼

源義助

藤為賴

源賴茂

平重時

平時村

平時賴

源泰綱

藤為範

源尊氏

藤基尚

平朝時

平時宗

源泰氏

源義貞

源賴綱

藤重能

橘正氏

源秀長

源則祐

源師氏

源氏賴

源高經

源高貞

源義興

源義詮

橘正成

橘正行

源顯家

源賴康

源賴基

源義深

源直義

源滿貞

源滿兼

源義持

源貞世

源勝元

平貞親

源貞秋

源義政

源氏綱

藤義鑑

藤助政

源義滿

源義範

源滿家

源忠高

平貞長

源義明

源義澄

源氏親

大内義隆

平貞久

源持豐

源義晴

源義元

源晴元

平貞良

源義賴

源晴信

朝倉義景

大江元就

源義卿

源滿祐

源持廣

平貞孝

源義藤

源義秀

平氏政

平輝虎

平信長

豐臣秀吉

源竹千世丸

藤長政

豐臣一松丸

源龍武丸

平虎之助

源鶴丸

平飛龍丸

源小法師丸

藤喜平次

源義弥

父へ子にきく一子に孝と宗に孝と父へ妻をあられ
 み婦へ貞をあらてをあらうに若くにむけり。若くにハ
 るをあらやまむめ。世ハ神明を護とく。一む耐をぬ
 久に風枝をあらう。人あらひ。うて。う。う。と
 云。中。か。一。呼。悲。外。の。を。な。ら。と。あ。や。國。民。の。や
 じ。如。多。一。水。空。力。を。く。ま。う。さ。て。命。を。仁。義。礼。智
 乃。測。は。志。の。め。ん。ら。う。お。ひ。ぬ。う。ら。う。也

い。交。多。う。ま。て。う。う。ん。た。乃。む。ま。一。き。ハ。を。り。り
 時。頼。康。元。元。年。十。月。廿。三。日。生。家。志。て。最。明。寺。の。衆。と
 中。け。る。ハ。何。事。と。も。下。乃。改。ん。て。お。修。り。に。む。け。り

ね。い。く。可。ん。ん。も。ん。お。う。け。る。時。流。國。を。め。く
 一。く。人。の。邪。志。を。め。み。つ。て。に。新。あ。を。ぬ。ま。と。お
 ころ。一。あ。る。身。に。い。多。か。う。ん。と。て。同。年。十。月。十。二。日。乃
 叔。斗。教。乃。ひ。つ。と。な。り。流。國。を。免。く。り。ね。ひ。一。に
 接。津。由。親。波。乃。津。め。く。人。よ。え。り。押。致。せ。り。後
 家。乃。あ。ま。な。と。う。り。ね。う。が。後。家。を。け。く。も
 一。う。ま。う。あ。う。く。り。く。ま。て。あ。う。計。數。乃。ひ。り
 一。な。り。て。流。國。を。免。く。は。け。ず。な。り。と。あ。ま。れ。な
 一。り。て。あ。う。と。か。た。富。氏。出。ら。り。一。が。後。家。を。免
 一。位。牌。乃。く。一。角。の。和。を。な。う。と。て。出。給。り。一

同人或時ふめ川ゆく志も人後十をとおせりが暗
ねのりなむ求ふ人なりがし又ふつ乃後なまは
る求ふと不及ふまの供てゆりけりる礎い
みとてて後十又とつり。あいの川をかりてあ
求にけりて後よもとの十後とゆて志も人いかり
ぬ。後金中は事をすて。そとて。礎あ。天下乃智
者と云方にし志もつとにいとわ人乃十後を求
んとて。卒後を捨らん事。うとふねとせりく乃
ゆはあ。小。お別ををすて。後礎をりて是をと運
——うは。礎のうと。後人——こふゆりて。天

下此後とをまへん。卒後ハ商人乃も後く。天下に
あて宝と。十後失ふハ天下乃あへ。卒後
得へ。又十後をふて十後を求るなりや。うと。お別
と。後金乃人。後感——て家。り日記。あ。と。う
ゆり。也
或時お別乃。あ。あ。の。後乃つげと。後礎。あ。を。用ひ
て。天下と。后。人。や。家。事。を。か。る。や。と。二。凡。の。つ。る。後。あ。は
あ。あ。なり。う。は。止。事。を。え。ら。う。て。お。別。を。礎。を。り
——せ。又。あ。乃。あ。う。と。海。く。り。と。後。り。後。く。向。後。を。方
一。方。の。執。持。せ。ら。る。が。あ。う。う。と。下。可。飲。も。その。後。り。想

十子物なまへに。大領の案帳を中へ移し
る。礎ぐう。是ハ大守乃而言。家より元は
夢の。多礎が。角より。新へ。中。移。人。も。あ。る。前
より。今。や。中。乃。中。なり。と。退。出。一。ゆ。也。

傳未考重而作後人考

源泰綱曰。何事。之。入。る。ぬ。ふ。り。が。人。を。う。あ。る。は。能
か。ゆ。さ。う。人。なり。物。知。り。を。ぬ。る。人。は。知。る。は。あ。ら
ぬ。なり。う。あ。る。人。ハ。又。体。より。あ。る。ぬ。は。は。う。う。ハ
う。ぬ。なり。あ。る。ぬ。人。ハ。う。あ。る。は。あ。る。は。う。て。は。ん
う。は。能。あ。る。ぬ。は。能。さ。う。ひ。う。あ。る。す。る。也。が。あ。る。ん

う。う。か。ぬ。や
又。あ。る。人。を。の。ま。し。勝。て。後。人。ハ。勝。た。ぬ。ま。あ。て
後。人。より。う。あ。る。勝。負。ハ。あ。る。あ。る。後。人。ハ。あ。る。を。知。り
を。入。ま。し。能。勝。者。ハ。鬼。神。も。と。勝。た。ん。や。人。ハ。を。か。て。を
や

源信澄三男。宇多源氏。後五位上。左馬作。正嘉元年
月吉。神輿入洛之時。依防之。自後。源草院。賜六角。祿。号
昇殿。正五位下。弘長三年十一月廿二。出家。生西。建治二
年五月十七。卒。母平泰時女
源義兼。同。源。を。う。り。國。を。争。ふ。人。ハ。能。勝。者。を。と。て

ふを多ぬ人の孫ありとてとてりて

源義康男号足利右馬頭從四位下八条院藏人

母勢田範忠女正治元年三月八日卒身長九尺五寸

日本全双之大男也号駿阿寺

教為範曰言とて人をあつ人の多約とて人を

知る人さかし約よりく人さみあひあふさあ

え

藤原利仁將軍八代從五位下成家男也從五位下

右衛門尉源仁安二年正月晦日使宣建仁三年十

月廿一日卒ス 八十一歳

源義助元弘年中は新田義貞と小糸お操と

と不和の事記とてに鎌倉より大軍じふ乃由

新田の二門軍渡さしうてあつひは

田代城にて利根川とおよわてたうり

あつひは越後の二門とせし津張へうりて

上田は指針あるとせんきさうくありやう

負者堀屋二良義助すゝて曰丈夫に死を

うりんとくみとおるんと唯備有河胸よわて

金と枕して討死せんは是子孫の面目あるべし

なり依之一門は新田より立鎌倉へうて攻

出方しゅほうより勢せきも付つて程ほどく過あやふを政せい治ちせ
なり

義貞朝臣よしさだのちうじん舎や才さい号ごう脇屋わきや右みぎ悲かな依よ從より五位下ごいげ督とく也

三年五月三年五月吾われ於こ三列さんれつ病死びやうし

源氏公げんじこう曰い人ひと有ある乃すなはち三才さんさいあり才さい三敬さんけいなり

又曰またいぬ人ひと有ある素もとじぞのいさなりハ張良ちやうりやうとあざ
むさうんをいさなりハ心こころと也なり乃すなはち三才さんさいあり
うやまひ吾われ神明しんめい乃すなはち人ひととあざぬものハたうひ
運うんけくとも世よ世よまてハ保たもつうをふりて

信のぶ公こうあつものハ運うんけくハ賢けんくハ勇ゆうありと也
ふ信のぶ公こう乃すなはちのハ運うんけくハかあハハ勇ゆう公こうのハを
の運うんけくハ乃すなはち勇ゆうにまうひて神明しんめいハ濃のうあつと
あつと

清和天皇十五代足利讃岐守源貞氏男征夷大將
軍正二位大納言贈正一位左大臣母上秋頼重女延文
三年四月廿九日薨す五十四法名妙義道号号仁山号
幸持院至百年忌贈太政大臣

故な為ため頼日よりひ大才だいさい乃すなはち合あ我われハ糧りやうとてハ船ふねをまけしハ保
ふなり人ひと是こゝろと考かんがふ事ことハとやうと也なり十死じふし一生いつしやう時に

和言上同卷六

辛丑月晦卒四十二歲

ものなり

利仁の軍九代竹田中勢並從六位下基重男也

元二年六月六卒

くろく下

之間建保七年七月十三日放火，皇居即自害了。

時四十一

平朝時曰。我乃要之。歎乃乃在能奈。味方乃乃

又曰人言公言好あるものハ天地是を守護し
人亦乃師也。悪公悪好あるものハ。天地是を守護
みく人量成をくあひぬ

清和天皇十五代新田二郎朝氏男正四位下左中
將左兵衛督昇殿建武四年壬七月二於越前國
友崎足羽當流矢自害卅八歳

源義興曰丈夫ものハ。死地より生れり
一。生。死。に。渡。り。て。生。死。を。わ。る。り。た。る。ハ
何。う。さ。る。の。か。あ。る。か。あ。る。か。か。り。深。に
持。ま。る。な。念。み。る。の。ハ。生。死。より死地におもむく

を死あをほよるを死のハ死地より生れり
出。か。た。り。死。地。より生れり。ハ。何。か。ものハ。物。と。て
く。ひ。や。つ。あ。ま。か。く。死。地。より入るのハ。公。神。か。護。る。り
を。あ。る。べ

清和天皇十六代新田左兵衛佐正四位下左少将兼
播磨越後守源朝臣義貞二男也正四位下左近将
監延文四年十月十三日上野国於矢に渡自害依延
靈成崇新田大明神平

源頼綱曰丈夫なりてハ。生。死。を。わ。る。り。た。る。ハ
あ。ま。か。く。死。地。より入るのハ。公。神。か。護。る。り
を。あ。る。べ

其の。是誠乃。所なり。その。道。を。と。り。て。安。ん。あ。ら
す。其。士。ハ。所。安。ん。と。り。て。ハ。友。と。や。と。ん。せ。さ。う。と。り。て
を。の。も。や。と。り。て。ハ。

宇多天皇十二代佐々貴近江守泰経二男従五位上
備中守院昇殿文永七年蒙勅余江別伊吹山大地
殺長十間蒙御感従四位下昇殿并賜御製延喜

元年十二月辛未十七日身長六尺九寸

源義詮延元年中奥州國司顯家ハ新田德喜丸相
模二郎時行等牒合々院鎌倉政人トテ。試。時。後。余
ハ。軍。兵。と。り。て。あ。や。う。し。依。之。上。校。民。分。少。同。中。勢。大。

楠。志。和。三。郎。桃。井。備。摩。守。高。大。和。守。下。家。後。ハ。一。族
大。名。教。十。人。大。名。足。利。左。馬。乃。義。詮。朝。臣。の。前。に。来。て
彈。乞。を。け。り。或。味。方。度。乃。合。我。ハ。利。分。一。兵。其。旁
上。総。門。退。て。東。八。ヶ。國。の。勢。を。何。方。へ。付。と。み。て。時
乃。反。違。小。と。り。て。軍。乃。安。雪。代。討。て。可。我。ハ。や。と。り。て
延。こ。と。り。て。彈。乞。乃。と。り。て。戦。す。し。是。中。ハ。あ。り。義。勢。ハ
又。ハ。な。と。り。て。大。名。左。馬。乃。義。詮。を。出。し。つ。り。ハ。十。一。と。り
あ。り。は。い。く。と。り。て。彈。乞。を。出。し。て。大。名。義。勢。を。あ。り
乃。と。り。て。ハ。一。族。是。ハ。面。々。乃。彈。乞。を。と。り。て。是。ぬ。ま。り。て
軍。を。す。り。は。い。く。ハ。一。方。を。と。り。て。ぬ。ま。り。て。は。い。く。ハ。

小をらして軍帳をさぬ物としてせある見ゆ
 とも義詮東山乃家伝としてせある見ゆ
 あう大敵がきくして一我をもさくすけふせん
 武士あうもの恥辱けりう是よりすくすくしめしめ
 方小勢なりとも一我して寄ハ付死とて今又乃
 今こそ事すくは一方打破て妻房上総へ引退て歌
 乃あうなるあうして上層一宇治勢あうて前
 いら攻めらんふがう歌成亡とらんこや紗ハ大君み
 あくむがなふゆるまきわてあのみり回一を
 かとなり

征夷大將軍も氏二男従二位大納言征夷大將軍
 贈従一位左大臣貞治六十二七他男三十八宝篋院
 童名千壽丸

藤重能建武二年源も氏に鎌倉より合戦院利
 あうして鎌倉勅勅乃る。あうして鎌倉へおき乃
 西上校保良も至徳軍法ハ勅令をもおき乃
 色附のあうより今して似倫負成とて先んてハ
 も氏一家出家とてむも持うとての倫言ハ和也
 けもなり。是もも氏よりせまうてあう成成
 こそ軍乃解あうて終は是利家軍成とてあう

やう乃人代援助とる時。あつて筋なき輕出
來て其の人をそのふ事なす。是必その人れ氏
族乃事と接りしる云々のなり。おの事世にうり
こて。家乃棟梁あらんとおもふなり。落世の人を扶
助とる。十種乃益あり。才一に大おの用多に人能ひ
才二はおの思ひより節なり。時を後。才三に大おの
時人司りある。才四にもの乃人いりある。言上板
氣勢多て難なり。食錢は大に用多し。才五に右
例を引軍乃利。はる年。才六は味方大軍討ふ。お
疵を蒙りし時。嗣おの用て人の言はる。才七は

才七款國は入る。勢乃大にいりある。才八は
姓氏をいし。才九は集りし事。才九に攻
て難なり。時人をもて和入る。味方利あり。才
多。才十に人をもて和入る。味方利あり。才
多。才十一に人をもて和入る。味方利あり。才
多。才十二に人をもて和入る。味方利あり。才

敏達天皇十八代。楠左馬廐佐從五位上。橘正遠。二男
本朝中。真武畧。達人多門丸。右兵衛尉。從五位
下。河内守。建武三年五月廿五日。於兵庫湊川。自害
掃河兩國主。法名義龍。号雲光寺。
橘正氏曰。士うてハ名利にふりて。名利をいふと

乃士ハ誠乃我ハカ一異朝聖賢乃予一（昔
國乃ひつもの。まゝ一終一各利ハ多しと。武士乃
乃ハ是とまじし。付下ナリ。恩地あり。びより。けり。に
正成あゝら。通し。勇猛乃和哥。戰場乃夜毎。あひ
らよ。はあて。ふさ。す。是。各利ナリ。正成乃仁勇和
哥ハ

仁也義ト勇に在る一。大お。大。さ。へ。え。い。ふ。
に。お。か。ま。ひ。

す。ら。み。こ。と。も。び。あ。は。た。と。た。り。な。も。軍。あ。や
と。感。一。け。し。う。ハ。あ。は。ち。の。み。各。利。よ。ふ。け。つ。て。あ。を

し。か。さ。り

正成、舍才号、田七郎、改正、季、同時、自、害、法、名、
見、龍、号、仙、岩、寺、

橋正行曰、父乃遺戒、三男乃外。つ。の。に。主。地。を。お。て。志
甚一。中一。と。と。生。産。乃。智。る。れ。う。なり。經。思。多。し
人ハ。ま。ま。と。思。う。く。を。持。こ。う。小。勇。あ。し。三。男。乃。い。ま。め
小。い。う。ん。士。ハ。う。の。身。正。成。あ。て。邪。欲。あ。く。義。を。お
て。死。を。い。と。ひ。上。成。う。や。ま。ひ。下。を。め。み。言。語。し
邪。か。く。る。に。事。あ。る。い。不。動。ハ。是。上。士。ナリ。中。士。ハ。上
乃。人。ハ。似。て。欲。あ。う。上。を。ね。あ。ふ。あ。り。て。あ。う。下。を

めくまひ。是中士なり。下士さへハ。中の人ハ似て定
かふく。あまふ。銭少知死を。れあむ。乃あむ。ひ下
士なり

正成長子号。芳力左衛門。貞和五年正月五日河内
国四条繩手合我之目。自害廿五歳法名升龍
道号雲山号。大光寺。舍才二郎正時同。自害
源秀長ハ世ハ五双ハ馬の名人なり。銭に能書。冬草
乃建者。少く。志儒ハ冬草。なり。或時。お軍家小
る。乃る。を。一。下。先馬。毎。こ。つ。死物。なり。と。か。ゆ
は。下。人。乃。力。事。る。さ。ひ。あ。ひ。さ。ひ。と。知。こ。ま

ゆ。下。系。終。少。く。下。馬。を。ハ。ゆ。休。せ。一。て。終。み。す
あ。ひ。に。よ。く。不。持。と。さ。不。法。知。た。ま。ひ。次。ハ。興。教。の
具。よ。者。あ。や。う。さ。不。乃。あ。う。と。能。み。あ。う。ひ。下。を。り
くら。せ。お。ち。ゆ。ひ。う。さ。と。い。その。ゆ。て。能。く。地。た。ま。ふ
ま。一。代。用。表。を。わ。と。れ。や。さ。ぬ。と。い。う。馬。を。う。く。地。る
乃。終。と。さ。り。なり。是。秘。法。乃。事。也。と。い。ひ

近江源氏。秀義入道。一男吉田。法橋。嚴秀。五男泰
秀。二男也。將軍家。近習。無双馬。名人也。号。吉田
源左。系。門。尉。
源顯家。曰。軍。ハ。一。万。二。千。五。百。騎。旅。ハ。二。百。五。十。騎。卒。ハ

大補昇殿延文三年五月初出家法名善忠

氏之逝去故

源師氏曰治世乃時評之乃多通屋とさかあり
お礼世乃ととなり言ふ乃ささるぬハ少とあり
乃ととなり

清和天皇十五代山名左京權大夫時氏男右衛門

佐從五下政師義永和三幸三月土日平五十二歳

法名道賢

源賴基曰時を金とくも失ふるくも天に下る
上下時を失ふるくもなりかありなり時を知を

良人

清和十五代細川形部大夫賴春三男從四位下右京

大夫應永四年五月七卒五十歳号妙觀院

源氏賴曰可民常の公なりさハ執事乃科なり執事

乃科ハ將軍又級がよりぬハ君良長可利なり

と不利利成むさる長成用る時ハ暴惡河ひさ

あて而性とせむる時ハ民乃ささるハ天は昇て災

災とならん災多おさるハ國家なるる是上は

まひ下あさるゆかりなり

宇多天皇十七世源時信男從五位上左馬廐

一後よその器量よき人なりとあふふに友をあらふに友を
先あらうとあふふに友をあらふに友を

そ氏將軍舎弟從三位宰相贈從二位延文二年二月
十八日為そ氏に被毒害四十五歳

源高貞曰いひて乃ちあふふに友をあらふに友を
そいひて乃ちあふふに友をあらふに友を
乃ちあふふに友をあらふに友を

宇多天皇十三世出雲國主堀名判友貞清男從五位
下隱岐守号堀屋判友康永二年四月朔為高師

虫伏誅

源満貞曰人懐公乃ちあふふに友をあらふに友を
乃ちあふふに友をあらふに友を
乃ちあふふに友をあらふに友を

清和天皇十五代左京大夫吉良源義男從四位下治部

大輔法名有賢康永天龍寺供養隨兵

源満兼曰人乃俗性なり乃ちあふふに友をあらふに友を
乃ちあふふに友をあらふに友を
乃ちあふふに友をあらふに友を

え 始とて致^や乃^{なり}より人^{ひと}信^{しん}性^{じやう}を失^しわて位^ゐなりとて
勢^{せい}に急^{いそ}ぎとれ人^{ひと}是^{こゝ}に教^{きやう}を授^{おづ}けしむるなりとて人^{ひと}勢^{せい}を
さ^さす時^{とき}是^{こゝ}に急^{いそ}ぎとれ人^{ひと}是^{こゝ}に教^{きやう}を授^{おづ}けしむるなりとて人^{ひと}勢^{せい}を
人^{ひと}今^{いま}はさす

義満將軍男從一位内大臣贈太政大臣征夷大將軍應
永三十五年正月十八日薨^は三十三歳法名道詮道号顯山

号勝定院殿

源義範曰^い直言^{ちきん}は友^{とも}かし濁^{ちやく}言^{ごん}は人^{ひと}を失^しふ公^{こう}学^{がく}
ハ人^{ひと}乃^{すなは}ち不^ふ難^{なん}なり乃^{すなは}ち信^{しん}のむ所^{ところ}なり是^{こゝ}に唯^{ただ}人の
言^{こと}ハ言^{こと}とて是^{こゝ}に言^{こと}乃^{すなは}ち言^{こと}とて言^{こと}乃^{すなは}ち言^{こと}なり

清和天皇十七代一色兵部少輔源満範男修理大
夫從五位下永享十二年五月十五日於和歌山自害号德

光寺

源貞世曰^い人^{ひと}あるたはゆふあさかたなり起^{おこ}すも
乃^{すなは}ち急^{いそ}ぎとれ人^{ひと}是^{こゝ}に教^{きやう}を授^{おづ}けしむるなりとて人^{ひと}勢^{せい}を
また信^{しん}のむと世^よにあらはれ下^{くだ}けしとて
多^{おほ}くは是^{こゝ}に急^{いそ}ぎとれ人^{ひと}是^{こゝ}に教^{きやう}を授^{おづ}けしむるなりとて人^{ひと}勢^{せい}を
此^{こゝ}に急^{いそ}ぎとれ人^{ひと}是^{こゝ}に教^{きやう}を授^{おづ}けしむるなりとて人^{ひと}勢^{せい}を
また信^{しん}のむと世^よにあらはれ下^{くだ}けしとて
又^{また}曰^いは是^{こゝ}に急^{いそ}ぎとれ人^{ひと}是^{こゝ}に教^{きやう}を授^{おづ}けしむるなりとて人^{ひと}勢^{せい}を

江別佐々貴家展流也從四位下豐後守東都守
 護武畧達人謙也哥道人也得自然智
 平貞親曰家法考八國を考ふ人ハあやうと云ふ
 金を以てむらさきと云ふ法考ふ人ハ金を以て人考ふ
 やうと云ふか一過て過(過)と云ふと云ふハ良人の業
 かやの事也法考するものなり

桓武天皇二十代伊勢守守並兵庫助貞國男也從五位
 下伊勢守文明五年正月廿一日卒五十七歳松軒
 平貞長曰要ふ右に諫をいふ事終乃ひけり
 て虎の尾をさむと云ふ一甚しきハなるもの事考ふ

持つと時々の詮か一は憶ふ能入事と云ふ長は
 いふなり

桓武十八代伊勢七郎左衛門尉貞信三男也從五位下因
 幡守法名照心永享八年四月七日卒七十二歳

源貞秋曰神明小なも云々一むらさきハ天下國家ハ
 勢を以て保ふハ餘約を以て賊歟と云ふ一
 法氏ハ一むらさきのあやうと云ふ時考ふ金一

今川入道う後息實舍弟也右惠佐從四位下法若
 仲高子孫多
 源義明曰士あつと云ふハ乃事と云ふと云ふハ乃道

乃^{もつ}もい^いこ^こハ余^ああ^あて^ても^もい^いて^てハ家^けの^のあ^あま^まと
氏^し家^け乃^も成^{なり}つ^つて^てハ貪^{ひん}女^{にょ}も^も是^この^のや^やり^り

關東後領基氏^{かんとうこうりょうきし}ハ六代古河公方從四位上左馬頭政

氏^し二男^{になん}号^{ごう}小弓^{こき}御取^{みとり}強弓^{きやうきやう}大力^{たからちから}馬^{うま}を^を有^あ也^{なり}

源義政^{げんぎさだ}云^い曰^{いは}君^{きみ}忠^{ちゆう}孝^{かう}乃^もの^の成^{なり}あ^ある^るは^は是^こを^を聖^{せい}教^{かう}の^の

利^り欲^{よく}乃^もの^のハ制^{せい}せ^せと^とも^もさ^さら^らん^ん君^{きみ}も^も君^{きみ}さ^さら^らん^んハ

臣^{おみ}も^も臣^{おみ}さ^さら^らん^んて^て國^{くに}乃^も室^{むろ}さ^さら^らん^んや^や吾^{われ}を^をさ^さら^らん^ん事^{こと}ハ

と^とや^やく^く仁^に徳^{とく}ハ^ハい^いや^やり^り天^{てん}吾^{われ}代^{しろ}替^かへ^へる^る可^べ氏^し乃^もさ^さら^らん^ん

給^{たま}ふ^ふや^やり^り

乃^も氏^しハ八世^{はつせい}号^{ごう}東山^{とうざん}殿^{のう}征夷大將軍從一位左大臣贈太

政大臣延德二年正月七於東山他男五十五歳法名通

慶道号喜山号慈照院殿

源義澄^{げんぎさう}云^い曰^{いは}良^{りやう}お^お人^{ひと}ハ成^{なり}害^{がい}と^とう^う事^{こと}を^をつ^つま^まじ^じり^り

是^この^の事^{こと}ハ終^{はつ}ひ^ひ人^{ひと}成^{なり}助^{すけ}ん^んが^がな^なり^りあ^あお^お人^{ひと}成^{なり}害^{がい}と^と

な^な事^{こと}け^けさ^さら^らん^ん事^{こと}ハな^なり^り又^{また}教^{かう}ん^んが^がな^なり^り又^{また}西^{さい}ハ一^{いつ}か

つ^つま^まじ^じり^りも^も仍^{おほ}ハ各^{おの}別^{べつ}が^があ^あや^やり^りも^も成^{なり}あ^あし^しり^り

そ^そう^うハ成^{なり}あ^あや^やり^りと^とう^うニ^にを^を言^{こと}ふ^ふあ^あお^おり^りや^やあ^あい^いべ

ん^んさ^さら^らん^ん

東山義政云御養子征夷大將軍從二位内大臣贈正

一位太政大臣實政知子也号近江公方始義通又

ふへといふもふし不意を月かあなり

藤原秀卿廿七代法西奉行後号探題大友修理

大友從五位下義長也從四位下修理權大友此度流号

兼池

大内義隆曰世界乃珠黑の國家以て之を芥なり珠味を
命せしむる大教なり又教は是世に不及也なり

百濟國餘璋王第三皇子琳聖太子七世孫来て本朝
愍王孫始賜多々良姓立館舍曰大内以之為称号
元祖正桓廿二世從三位左京大夫七ヶ國守義貞男從
二位太宰師侍從は子息義長之時大内以絶

藤助政曰世乃吾人といふ大く大婦人なり夫れを
人々能くはした大婦乃ぬきとくつるべし大婦を
并にわくわくとぬきとくつる物なりけりぬきした
ふへといふ吾人といふかこころのなり又此義長
乃百ヶ条といふとくつるやとく

三条大納言公綱は落子流し助政事實佐貴後
領六角正頼朝臣為子と云ふ浅井新三郎賢政也天
文十一年正月六日卒法名崇龍馬武畧達者なる
佐貴家臣也
平貞久曰人毎人乃福をいふなり夫れをいふものは

若うつり一何の事あらかりしついで海あり必
 ううぬ人乃能事なり何なるくえとてぬみか
 る人毎貪うやしむおなり又福を望しやふん
 我人乃富ふ不富ふとふふあり佛之聖人を富ふ
 をや一と富のいひ乃能なりや仁徳とま
 やう貪福をみうひ我人なるものいひ是を
 なるふ事なり

桓武天皇廿代伊勢下總守少貳男六郎左衛門
 尉大永七年二月十三日於清住寺川原討死四十二歳
 源持豊曰と世の人乃主あるものいひ富貴なりふ

老うと智慧あつやしらるる代おとろお下のか
 上は不通して國家のやうとにあり上は仁義とあ
 乃む世る下は礼智乃能とふ上なるなり下
 の上は上は若く上乃お下は若く是不修の処なり

新田大炊助義重十世山右宮内少輔時濃男從五位
 上右衛門佐法名宗金号遠碧院應仁元年細河

勝元合戦無正

源満祐曰実乃人かあふ不弁流るものなりは
 留弁乃ものいひ実かし實乃人他の能をうぬ
 るよはのいひ実なりあて人かし弁乃人を

此外よりあつてそのまゝなり。他の如くうか
かなり

村上源氏赤松二郎入道多忠四代大膳大夫從五位下義
則男從四位下左京大夫嘉吉元年六月葛原將軍義
教公殺諸將一同責下於播州誅之法名性具

源義晴公曰一言は天下の人心安んず事ありと爰源
義實あつて曰言の一言なり。公乃曰一言は天下の人心
安んず人討つ惡乃一言なり故に乃良の言なりと
とん思ひあつてむなり

享祿二年將軍義晴公江州より遷るる時。佐々

定頼之甥爰領義實と云ふ義晴公の御國也
大永元年十二月義晴公元服加冠細川武藏守高
國理髮佐々木六角義實淇州佐々木彈正忠定頼也
享祿元年九月八日三好乱江及御下向被頼六角義實
伯父定頼高嶋郡朽木御座同三年正月於朽木任大
納言正三位下時爰領六角義實也任從四位下叙大膳大
夫天文元年義晴公上洛細川晴元賜諱字為爰領
前爰領義實任從四位上三好海雲等亡同十年將軍
江州下向同十九年江州於高宮太御所五月四日他男下
時年十歲法名道照道号驛山号万松院殿贈左大臣

從一位少貳將軍十三世也

源持廣曰日本乃倭族多々みまに西國人のをくむ
こなり。東國の人をくみてまやくなり。上方筋の
人乃を屋のつかひてまやあやなり。上兵のつかひ
上方筋のつかひ。上方のつかひ。多々のつかひ
されとせみまに。上方筋乃流主氏者執りてすか
もの多々の上兵とせむ。東國西國乃士と武と
執りてす。ものつかひなり。

吉良上総父長氏十一世左衛門尉佐持清男也号右兵衛
佐依安實子吉良西条義安養為子号花岳寺

源義光曰が家乃とまわしては民乃うまひをまわ
る。やどものうまひは食なり。ばうまひとくとも
をが家乃とまわ。民乃くみとまわぬとハ賊
とまわ。

吉良長氏九代今川修理左氏親三男從四位下治々大主
母大納言宣胤女永禄三年五月十九日於三尾同桶狭山
討死号天沢寺

平貞孝曰倭族とて國家と治る人。さうし子孫のついで
とらて。必家と治る人。さうし子孫のついで
乃る。さうし必家と治る人。さうし子孫のついで

なり何れと云ふは後世思ふものなりと云ふなり
は物と云ふ事多し必やうに云ふなり

天文十五年冬將軍父子江州下向平十九日於日吉樹下
舘元服加冠佐々貴後見定頼叙四品勳之從五位下
征夷大將軍同次一年正月敗落三好和隆同廿三年改義
輝永禄元依三好乱江州下向平上洛小自河合戰三好降
參細川晴元没落十月六角義秀為後代同八年將軍
三好松永等惡不義六角朝倉以欲討三好松永三好密
聞之同五月十九日俄將軍殺于時世哉御母岡白植家
云女号光源院殿法石道号道号融山贈一品左大臣

平貞良同世物と云ふ人なり
すう人なりと云ふなり孔子なりと云ふなり
乃云を云ふはと云ふの外なりと云ふなり
物なりと云ふはと云ふなり
家なりと云ふはと云ふなり
と云ふはと云ふはと云ふなり
まはるはと云ふはと云ふなり
家なりと云ふはと云ふなり
と云ふはと云ふはと云ふなり
と云ふはと云ふはと云ふなり

平維衡十九世伊勢兵庫頭貞孝男也永禄五年九

月土日於長坂山討死

源義秀曰天下乃事功人の求まざる所と好むる所
人乃人なり成来はる所の聖賢人なるものありん
世に人なるは聰明と外なるやして世智并古を以て
人を志の事言葉よりして人乃諫を以て人
いふをよとふ事と悦はる事悪人なり吾人の内は仁法
とけとて外乃事と求ひる事成るやして人なる
捨て吾神明乃悦はる事とす可との事なりて人
なりなり

源氏綱朝臣孫愛領義実之男也号佐之貴愛依
天正九年二月廿日病死三十九歳法名宗源道号光山

号東光寺

源義頼曰合我吉日良辰と云々ぬづく唯おの
旨悪乃ゆふ事なり日は吾愛なりそのなりはあり
あおはるるにゆふかりてなりは吾愛と云々
良乃城郭と云々事なり其乃一國と成と云々
と云々外あり民と云々事なり吾愛と云々物
先は依てあり事なりゆふ事なり言ふ事なり是れ我好不
なり

若別武田左馬頭直信七代從四位下大膳大夫源義
統男也從四位下右京權大夫精兵大力身長七尺三寸
母將軍義晴女天正十年六月四日於江州織山城
討死号三光院実佐貴後領義秀舍弟義統為養

子

平氏政曰と世方にるなりぬるものといふ大方魚外ふ
礼なりものなり又能くものなりといふ時めくふまこと
ひく衣裏あひうくあがりあつものなり吾人八世
をうきしてある一呼懐か

小条新九郎入道早雲源左京大夫氏康男也從五位

下左京大夫天正八年七月十日為園白秀吉公生害
源晴信曰と世乱て天下一國を豊あふは是よりして
天下乃家く多き乃あつひとみる武徳よりあひ
めつ希なり信長より矢弱あて大娘なり是武功
を果して冥加あり道信より矢ハ強太あ
和の上方ハ江州六角義秀是又強勇甚いて意
然か一もあつ旗人浅井長政より矢ハ士より道
うかあへとも礼せ乃時代あつはまき乃松平
人康康より矢おらあてて冥加と甚おなり家
康令よりハ必天下乃加助とて大とより馬乃

名ふらん

武田伊豆守信光十四代信虎男也從四位下大膳
大夫法名信玄号杭山大僧正達台密禪奥儀武畧
達人也甲斐武田若狹武田皆新羅三郎之後胤也

天正元年四月十二日病死五十三

平輝虎曰運天ありて胸ありて心ありて足ありて
ありて何れも歎きと云ふありて今合戦とて死す
かゝる人ぞ我の心ぞ生さんと云ふありて
死ぬるものなり家と出たりて死すと云ふありて
ゆふとゆふは是又死ぬるものなり世の中は是

と云ふありて死すなりと云ふ武田と云ふなり
へんは世に云ふなり

桓武天皇十二代鎌倉平太即景明二男景弘始而号
長尾自之十四世長尾為景二男也号長尾平三後左
衛門佐從四位下法名謙信天正六年三月十三日病死四

十九又為景上校頭定家臣也謙信賜上校相續
朝倉義景曰治世と云ふ我乃後嗣なり今その家

乃改名の邪正なり今正の邪は後嗣なり人を好家必
後人よふ好奇悪ふ多かる河あり國あり武田あり及
なり正の正は多かるく邪は正なりと云ふなり

邦かゝる公といふと。又欲ふら出せば。信実か。通ひ。無明
いふや。法性。の如し。

孝德天皇四十九代朝倉。彈正忠孝景男。左馬廐。大進。四位
下。越前国。主。實。源氏。綱朝臣。男。後。領。美。我。二。つ。外。也。養
子。天。正。元。年。七。月。十。八。日。為。平。信。長。公。生。害。自。是。朝。倉
乃。絶。

平信長曰。ゆゑをそのし。の地をさるゝ。の。武。乃。用。ろ
き。る。も。用。り。時。三。乃。矢。あり。一。日。節。儀。の。合。我。は。油。乃
あ。る。事。二。は。債。ま。に。功。を。進。り。す。と。い。ふ。事。の。一。と。い。ふ。お
一。つ。矢。あり。三。は。み。や。む。や。り。う。を。い。ふ。事。は。移。る。は。ん。と。い。ふ。

乃。と。い。ふ。ゆゑ。を。つ。あ。て。一。首。乃。あ。り。お。ま。よ。と。い。ふ。大。乃。債。ま。
と。い。ふ。入。る。あ。り。は。膝。病。ま。の。よ。と。い。ふ。事。は。あ。り。

桓武天皇十四代新三位中將平資盛。子。江。別。津。田。任
居。号。津。田。權。太。親。真。是。織。田。氏。之。元。祖。也。此。親。實。十
五代。織。田。備。後。守。信。秀。二。男。也。天。文。三。年。五。月。廿。八。日。生。
童。名。吉。法。師。從。二。位。右。大。將。母。六。角。近。江。守。源。子。賴。朝
臣。女。實。姊。也。天。正。十。年。六。月。二。日。依。明。知。月。向。守。光。秀。遷
心。於。京。都。本。能。寺。生。害。四。十九。歲。贈。太。政。大。臣。從。一。位。号。攝
見。院。泰。山。岩。

大江元就曰。國主ぬらんもの。政。乃。さ。う。と。く。信。乃。内。院。

乃あつてははたはくとももの天必はとて
 仁徳の人あつても必然の理なり。あひはたおふ人を
 けふたそのもの害はく程を不測して驚かぬを
 らせ持て多てさす。ひあつてをのさる
 好むふたつとて。畜生の人殺さく殺さくひあ
 りあつてのなり。畜生にぬり来はものさへあ
 てとひるうひは是乃要あつてをさるなり

大江廣元上代式部大補從五位上盛元二男号毛
 利從四位下左京權大史始住多治後継毛利家
 督

豊臣秀吉云。天下ハ天下にあつて天ト也。佛
 仏神はあつて吾神なり。人今あつて吾人なり
 世間万物万ふあつて吾も物なり

又曰。日本吾の本國にあつては又吾國にあ
 ら。天竺日本は是吾も神なり。持ては漢云。中
 乃人れなげさ。吾も神なり。やめさあつて
 公聚樂乃事乃門家は富くあつてものくが
 とあけつて。山中山成さけくをさる。わつて
 てと又さるなり
 又曰。あつての金分利暗殺なり。おるなり。又と

源家守貞也清和天皇九代新田大炊助贈鎮主存
將軍源義重三男得川三河守義季十六代松平康
忠卿男也天文十一年十月廿六日於三河豐崎誕生
別當氏長者牛車輦車兵校左右大臣元康元任
從一位太政大臣始是元康母水野右衛門太夫正康
廿寅江州守多源氏之慶流正福寺城主青木實

康女也元和二年四月十七日他界武等七十五歳日克
山東照大権現是也
藤長政天正元年八月廿九日伏誅乃時淺井新八節ふ
向て旧家信長姉弟なりとてとて浅井にまをさけす
然ふと友成義秀もまゝ病にいらて満生阿用島に下
信長も代つた先祖善代乃志氏とて一少の家
久とるなる誠人なりみよく後人うきう實か
ふはさふ事代家義死をさけが朝義士へのふ
ふ備(末代)送公乃もの運をうんとわたり
浅井依前守藤原助政男下野守久政男也号

和論語卷六
四十四

て。お屋ごらう物なり。かろくお屋ごらう人なるを
人お屋ご物なりとてひらなる事ありとあり
豊臣秀吉公取立武勇人也天正十一年七月檢随一後
備前安藝領事福清左衛門大進正則元和五年被除於
國流于信州川中泊經年病死

源中法野九十九乃時曰最良公と云恩を想ふと云あつた
う最良公の平しと世に名と云言ふをかり。物毎あつた
小最良公と云物よりまゝの人よりいふからひするの
と大に能く思ふと云何方にもかゝてあつた
我は是れあつた人となりて人となりてあつた

武士ハ物毎と云うに云く最良を能くする
やおとかなつた人となり

宇多源氏佐貴廣源京極宰相高次男也從四位
上少將若狹守高房改忠高母淺井彼前守教長
改女寛永十四年六月十一日卒四十五歳法名道長道号
天慶号云要院大改查源秀忠公聲也

源龍武九十九乃時曰最良公と云恩を想ふと云あつた
破聖書無束と云もの三光を唱うと云ひと云わて
小へてまつた勢けと云んかさういふと云う
あゝ人成けへあゝと云てあつた

世うといをて中よあふ。そと常ハ行乃らや
 一又ハ梅乃枝をいふと海わわてそのまをわくそ
 おまう一乃けもがら肉はわくおはせひがけさ
 乃一名と云へはなりめつ筋んと一破野うゆりて後先
 ねいふふさせ給ひ一となりげも、以近東園の信
 云々、終ひ一城之感一終い、軍國よを連一治
 ひ一となりび人成長乃後月、狂勢とゆく、文座うこ
 人かたつひ

六角源義郷朝臣、道名岩乙男也。始号亀、号九四郎。
 王、元和九年春、元服、依永補、從五位上、氏郷。

藤原平次十二歳乃時、是后、是諸王、終ひ一ハと世傳をい
 終るに、先男乃能と大君、小名とて、貴族とて、うまふ
 公、約稱、まう、そをさうとあひ。そ終ひ、筋と云、居て
 扶おらう、いあり。男よりをかう、いなり。るあ、ぬ、勤
 と色多し、大將やう、てハ諸伯乃志をとり。そ、姿乃長
 短、く、つるま、も、事なり。又、サ乃ふ、あ、先祖の志、あ
 又、世の男、は、大忠、ま、と、い、が、う、わ、終る、と、つ、さ、い、り、り
 心、ま、の、い、なり。

藤原景勝朝臣、男也。奥州采女、領元平、姓号長
 尾上、叔氏、依相續、藤原也。四品、播磨守。

平虎之助十歳乃時全おにむくく回人乃うさ
を。うんこあーてのふまのハキのむふあ。ばもの
ありてより。がくてもう。だん。教。そ。なり。無
か。くもあ。く。は。す。ものハ。お。め。く。さ。知。恵。ハ。あ
ゆ。ま。も。な。り。そ。う。い。ふ。う。あ。く。も。物。ハ。乃。ハ
ぬ。ま。も。あ。り。と。づ。ひ。ひ。ひ。と。なり

平将門世代相馬長門守男也後号大膳主是
佐代奥州相馬領

源義隆九歳乃時。お。は。ま。は。き。く。さ。く。ハ。あ。お。は。な。る
を。も。ハ。眼。ハ。さ。く。に。は。く。平。将。門。乃。ハ。様。ハ。は。く。下

子供まかへ。海。わ。て。は。き。さ。り。と。サ。さ。り。ハ。さ。く。さ。ハ
何。さ。う。も。あ。ま。く。さ。く。さ。く。と。や。く。ん。や。さ。さ。は。乃。ハ。物。を
み。か。ん。も。な。り。ハ。も。み。か。り。平。侍。ハ。物。毎。さ。り。て
さ。く。さ。り。下。子。ハ。物。毎。と。な。り。て。み。か。り。ハ。海。を。ハ。乃
け。や。う。と。く。さ。く。さ。り。と。づ。ひ。ひ。ひ。と。なり

東面吉良相續源三郎義安男上野助義定嫡子也
叙爵従五位下同月侍従兼左兵衛督

源義隆九歳十一乃御時。お。は。ま。は。き。く。さ。く。ハ。あ。お。は。な。る
い。さ。あ。ひ。は。き。く。さ。く。と。な。り。と。さ。く。さ。り。と。な。り
り。ん。と。さ。り。と。な。り。と。さ。く。さ。り。と。な。り。と。な。り

かりうにび病九あへんをあるこほあつおん一もん
う一は作多こい御父をこい何乃あまう一作多こい天
トとある人こあかりと作しと皆人々是をさす
は長なりれそと人なりかゝるは二葉よりその
こご一あつてひかり

東照大権現才九君達也後号正三位權中納言
房卿自然智之大将

武家部下之終

倭論語卷第六終

